

【1000 ~ 1500万円】生産管理・SCMマネジメント

オンコリスバイオファーマ株式会社での募集です。 購買のご経験のある方は歓迎です。

Job Information

Recruiter
JAC Recruitment Co., Ltd.

Hiring Company
オンコリスバイオファーマ株式会社

Job ID
1619717

Industry
Pharmaceutical

Job Type
Permanent Full-time

Location
Tokyo - 23 Wards

Salary
10 million yen ~ 15 million yen

Work Hours
09:00 ~ 17:30

Holidays
【有給休暇】入社6ヶ月経過後に10日付与（※試用期間が短縮されて終了した場合は、その終了日の翌日に前倒しで付与いたします）【…

Refreshed
October 29th, 2026 18:18

General Requirements

Career Level
Mid Career

Minimum English Level
Business Level

Minimum Japanese Level
Native Level

Minimum Education Level
Bachelor's Degree

Visa Status
Permission to work in Japan required

Job Description

【求人No NJB2409682】
当社における生産計画の立案、運営をお任せするポジションです。

■製品の在庫管理及び生産計画の立案・変更・進捗管理
■物流・サプライチェーンの構築、マネジメント、最適化
■提携各社との折衝、管理

Required Skills

【必須要件】
■製薬企業、CDMO、商社などでの勤務、実務経験がある方（5年程度）
■生産管理、物流に関する業務経験
■ビジネスレベルの英語力

【歓迎要件】
■バイオ医薬品の生産管理、SCMのご経験
■生産管理、SCM立ち上げのご経験

Company Description

当社は、ウイルスの増殖能力を利用してがんを殺すOBP 301やOBP 702などの「がんのウイルス療法」と，ウイルスの増殖を抑制して治療に貢献するOBP 601やOBP 2011などの「重症ウイルス感染症治療薬」を事業領域とし，ウイルスを軸にした『ウイルス創薬』を展開しています。〇テロメライシン（OBP301）は、がんのウイルス療法であるOBP 301は、がん組織に注入することによってテロメラーゼ活性の高いがん細胞で特異的に増殖することでがん細胞を溶解させる強い抗腫瘍活性を示します。また、正常な細胞の中ではテロメラーゼ活性が低くOBP 301の増殖能力が極めて低いため、臨床的な安全性を保つことが期待されています。化学療法剤使用時にしばしば認められる嘔吐・脱毛・造血器障害などの重篤な副作用は報告されておらず、身体の負担も少ないことから、患者様のQOL（Quality of Life）の向上が期待されます。OBP 301は、細胞や動物を使用した実験において、放射線治療や化学療法剤との併用によって単剤投与時よりも強力な抗腫瘍活性が示されています。〇OBP 702は、がんのウイルス療法OBP 301に、がん抑制遺伝子p53※を搭載した次世代腫瘍溶解ウイルスです。p53は正常なヒト細胞にも存在する強力ながん抑制遺伝子であり、これとOBP 301を組み合わせたより強力な抗腫瘍効果を持つウイルスとして開発を進めています。OBP 702を投与することで、OBP 301の特徴であるテロメラーゼ陽性のがん細胞において特異的に増殖し破壊する機能に加えて、がん細胞の中で発現されたp53蛋白質ががん細胞を自然死（アポトーシス）させる機能を有しています。これまでの前臨床試験の結果では、OBP 301と比較し、抗がん活性が約10倍～30倍高いことが示唆されており、さらに、間質細胞（CAF：Cancer Associated Fibroblast）を破壊する機能も認められています。〇OBP 601（Censavudine）は、RNAからDNAへの逆転写を阻害する核酸系逆転写酵素阻害剤（NRTI）です。OBP 601は、重症感染症のHIV治療薬として開発することを目的に当社が開発を行い、2010年から2014年にかけてBristol Myers Squibb Co.がPhase 2 臨床試験の完了まで開発を進めてきました。その後、HIV治療薬のマーケットが飽和状態となり、新規ライセンスの可能性が低い状況の中、感染症領域以外でのOBP 601の新規ライセンス契約締結に向けたビジネス活動を積極的に推進しました。その結果、逆転写酵素阻害作用を重篤な疾患へ応用することを目的に設立されたTransposon Therapeutics Inc.（以下「Transposon社」）との間で総額３億ドル超の新規ライセンス契約を2020年６月に締結しました。今後の開発はTransposon社が全世界で実施することになっています。